（大正元年十二月二十四日第三種郵便物認可）

夕刊 磐城新聞
六月十五日發行
日曜祭日翌日休刊

隨想 島崎先生に會ひて

加藤純弘

二

墓標は是非先生に書いて頂きたい、伯母さんも嬉ぶことでせうから、私は紳士に執筆を依頼し再び柩のある部屋にもどつた

火鉢を中心に老紳士と私は向ひ合つて茶を飲みながら世間話を始めた

『東京から比較しますと川越の方が幾分肌冷ねを感じますね、一昨日は大分雹が降つたさうですが桑害も可成り有るでせうな』

『川越邊は小さいのがぱらぱらとやつただけで被害など有りませんが、山手方面は大分激しかつたさうですが、先生は誰方でゐらつしやいますか』

私は思ひ切つて尋ねた

『私ですか、私は時々つまらん物を書いてゐる書生ですよ』

『では島崎先生でゐらつしやいますか』

『島崎です』

先生は微笑ながら敷島へ火をつけた

『矢張りさうでしたか、寫眞でお見受け致して居りましたが、さう思へましたのでお伺ひしたのです、以前は先生の著書も大部讀んだのでしたけれど最近は法務の方が多忙なものですから』

『有難ふございます、いつもつまらないことばかり書いてゐまして』

『先生はお忙がしいでせうね』

『何せ六十四の老人ですからな、はゝゝゝ……』

明治文學の大權威、詩には文章に幾百萬の愛讀者の若い血潮を躍らせ、新體詩の先鞭をつけられた文章報國の藤村先生は、誇らしい氣振りなど微塵もなく輕く笑つて話題を佛教方面へ轉じた

『貴下のお寺には大きな芭蕉が有ると思ひましたが、あれは冬特別に手入れでもするのですか？』

『いや、別に手入れは致しませんが、秋から冬へかけて一旦枯れたやうになりますが、春になると中から新らしい葉が出て來ます、實も成りますが暑い期間が短かいので食用にはなりませんね』

『芭蕉の葉は賢臓病によく効きますね、私も毎日お茶の代りにあの葉を細かにきざみ煎じて飲んでゐますが大變良いやうです、小便の濁りがとれるのを見てもよく分りますね』

『飲み憎く有りませんか…?』

『くせがないので、それに幾分甘味を含むでゐて飲みよいものですよ』

『どうです一つ……』

先生は餅菓子を私に勸めて自分でも一つほうばりながら

『私は甘い物が好きでして!』

と、冷えかゝつた茶を飲んで語をついだ

濱邊に立ちて

大竹秋平

日にきらめける濱邊の
砂山の單調に
身ひとつを悲しむ想は
いつとなく倦み疲る
たゆげなる浪の嘆きの
呼息ざしよ、夢のふかみに
『妄執』なほも忍び入りて
わが胸を壓しぬるその悶ね
をば今思ひ出づ
げに、事もなげに眞白く
碎け散る浪のかげに蕊り
添ひて底知れず小暗き
海の呪咀は默してあり
夏の光烈しく照らす海の
面
紺青の菜生ひ繁り
耀くを見て、誰か知るべき
人の世の濱に其の名も多
情の舞子の磯に
濱風に消え行く
極みなくも又いみじき愁
を

六月題詠。『初夏雜詠』歌數制限なし。
投稿締切　六月二十日。

初版本（上）

○△生

こゝ一二年の流行だが、古本屋が聯合でしきりに即賣展なるものを催す。これは勝買家ならぬ筆者如きにとつても大へん有り難いことで、懐に錢のあるなしに關らず、案内を受ける度に出かけるのを樂しみの一にしてゐる。漢籍は讀めず古版の和本なんかとても手に負へないから、和洋の活版本の前だけで目の道樂をするわけだが、何しろ一ペンに何軒分かの素見が出來るんだから、ひやかしとしてもまことに能率的で有り難い

そこでいつも氣のつくものは、明治初年――ならまだいゝが、末期の文學書までがひどく高くなつて來たことだ。永井荷風の『珊瑚集』が七圓したとか森鷗外の『雁』が五圓したとかに會つてひどくびつくりしたものだが、さういふ特殊な裝美本でなくとも一圓定價の本に二三圓の値がついてゐるのはさらにある。しかも一頃古本屋の棚ざらしになつて、五十錢もしなかつた分だから世の中も變つたものである

要するにこれは、日本にも愛書趣味の普及につれて初版本といふものに値が出て來た證據に外ならない。

版が古いほど安いと、本を大根や葱なみに安く扱つた謬見が消えて、本そのものゝ歴史的價値を認め出したわけで、當り前のことだが一般讀書界の進歩が之に依つても窺はれるのである

一圓本にも詰まりポケット版にも出てゐる作品でも、それが最初に世に出た姿その儘で堪能出來るんだから二三圓出しだところで安いものである

潮聲硯靜抄帳

雜詠　岡本機柳選

佳調

この道や今を過ぎゆく春の風　松堂
春の潮渚にのこる泡白う
砂利舟の蓆帆あげてあたゝかき
蛸提げてもどる海人あり春の潮
葉の影に紅きひし寒椿　武門
日向ぼこして居て思ふこともなし
コーヒーの湯氣にくもりー春灯
曉の鋪道の落葉掃きにけり　一來
夕雨の傘をもてる櫻かな

入山炭礦會社創立四十周年

珠雲　小野務平

開拓寒山化富郷
炭田餘澤及遐方
經營四十年來業
福祉還看岳盡藏

その日

6月16日　△河村瑞軒歿す（元祿三）△四條畷神社創建（明治六）△小包郵便開始（同二五）△チエホフ逝く（同三六）△守田勘彌死す（昭和七）

6月17日　△袴垂保輔獄中に自殺（永延二）△宮城五門衆庶の通行を許す（明治三）△日佛協約成る（同四〇）△ペルシャ皇帝トルコ大統領と軍事同盟案審議（昭和九）

○

縣教育會總集會で、學校の先生さん達が澤山來たが、先生には自ら先生タイプといふものがあるものだ。

小說 誰が殺したか (45)

今野賢三作　龍造寺膽齋畫

第二の殺人（十五）

『どうぞおきゝ下さい。それやあ隱れてこんな事をする女には色々な理由もあるでせう。墮落した女もゐるでせう。けれども私の知つて居る人は、みんな生活の爲です。誰がこんな事を隱れてしたいものですか、警官の目を忍んで世間樣へ恥を忍んで誰がこういふ事をしたいものですか。ねえ旦那樣私の夫はお役所へ勤めて居た安月給取だつたんですけれど、この度の緊縮騷ぎで首になつてしまつたんです。世の中は不景氣になるばかりでせう。私だつてこんなことをしないで、どうにかして眞面目に働いて行きたいと思つたんですけれども旦那樣、もう女にも職業がなくなつたんですよ私毎日探して歩いたの、その內もう二人で食べられなくなつて來たのよ、夫は體が弱いものだから、勞働も出來ませんしほんとに乞食になるより仕方がないと思つてる時、こゝのおかみさんに助けていたゞいたんです。どうぞ旦那樣、今日だけは見逃して下さい。お願ひしますわ。この通りお願ひしますわ……』

そして女は兩の袂で一杯の涙をおさへた

星野探偵は私立探偵であるだけに云ふまでもなく、これは見逃せることに外ならなかつた。目的は他にあるのだから

『おかみを呼んで來い。お前の泣き事を聞いた所で仕樣がない』

女は籠から離されたやうに慌しく出て行つた。するとおかみは部屋の外から何か、甲高い聲をあげて荒つぽく入つて來た

『何だね。探偵が何だい。刑事なんか驚きやしないよ私やあもう覺悟をきめてゐるんだから。けふばかりは私がぬかつて居たのよ仕方がないさ。ねえ刑事さん探偵だか刑事だか知らないが私にどんな用があるんだい!』

おかみさんは目を引き釣らして蒼い顏をして、酷く昂奮して入つて來た。片手に赤ん坊を抱へながら

『ちよつと君に聞きたいことがあるんだ』

『ねえ、私でね、判ることなら何でも答へるよ。私の判らないことは口を割られたつていはれやあしないよ

はは、又これで二十九日拘留かね。この間出て來たばかりなのに、しようがない、こんなにうるさくするなら警視廳でもいつそ私を食はして置いてくれるなら善いんだけれど。一生食はしてねね、それも出來ないだらう。食へなくなつてこんな事をすれやあ、又ふんづかまへられる、どうとも勝手にしやがれ、さ、何でも聞くがいゝよ。私もね金齒のお乘といはれた女だ』

『ふーんなる程、豪い度胸だな、然しおかみ、君も金齒のお乘と呼ばれる位だつたら、俺に隱し立てをしないだらう。實は俺は私立探偵だ。密告するのは譯はないが、魚心があれや水心つていふものだ、君が正直にきかしてくれるなら何も俺やあ強ひて密告する必要はないんだから、まあ安心するがいゝや』

『どんなことだね、早くいふがいゝさ』

『君はなんだらう。峰山正常つて亭主が情夫を持つてゐるだらう』

『何をいふんだね。そんなケチ臭い名前なんか、聞いたことありやあしないや』

その時二階で慌しく部屋を飛び出す物音がして誰かが逃げてゆくやうな氣配が感じられた

舊五月六日　日曜　新六月十六日　癸亥　友引　執　昴宿

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　急速なる發展を忽む時は却て蹉跌すべし▲二黑　天來の賜を受くる吉日企業名弘め何れも吉▲三碧　小ざせつを氣に掛けず心を勵まして進むべし▲四綠　福德集來の幸運日にして何事も進んで吉▲五黃　質朴を主とし倦まざる時は大吉の日となる▲六白　職々恐々身心共に落付きの無き日外出注意▲七赤　能く能く注意せざれば暗礁に乘り上る如し▲八白　忠實に本分を守れば知らず識らずに發展す▲九紫　事成るに近づきて運びの鈍る日奮勵すべし

舊五月七日　月曜　新六月十七日　甲子　先負　破　畢宿

▲一白　物事滯り勝にして無理をすれば破れを招く▲二黑　滯りなく物事すらすらと進む日但口舌注意▲三碧　內外協調を保ち健全に進めば出世の途開く▲四綠　人を頼りにする時は事毎に外れ勝となる▲五黃　一度思ひ立ちたる計畫は何所までも貫くべし▲六白　迂くわつに人の言葉に乘る時は失敗あるべし▲七赤　せぶみしながら用心堅固に進めば過ちなし▲八白　野心を去り虛榮心を除き貫直に働けば大吉▲九紫　小事なりと油斷をすれば大事を誤まるべし

十七日
日出　四、二一　月出後　七、三三
日沒　六、五五　月沒前　四、二一
滿潮　前二、五〇　後五、五五　干潮　前一〇、三〇　後一〇、三五
滿月　前五、二〇

十六日（小名濱測候所調査）
日出　四、二〇　月出後　六、三五
日沒　六、五四　月沒前　三、一三
滿潮　前二、二〇　後五、二五　干潮　前一〇、一五　後一〇、一五

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

專門　耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需　自炊ノ便アリ）

『先んずれば人を制す』
水菓子界の寵兒
フルーツケーキ製造器
資金僅三十圓で一ヶ月二百圓以上を生み出す金儲けの源泉フルーツケーキ製造器の賣行を見よ!
一日も早きが德（カタログ進呈）
夏の飲ものはフルーツから
高級なる原料各種の果實を使用し美味と滋養に富む
小兒さんが召上つて各削氷と違ひ衞生的な飲物　一個一錢で
是非一度は御試飲を願ひます。
フルーツケーキ製造器特約店
磐城平町二丁目
日進堂本店
電話六三五番

お醤油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌　醤油　たひら正宗　鰹節　食料品
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
（入院應需）

十錢日掛歡迎
時計　萬年筆　メガネ　各社レコード
平町二丁目
高橋時計店
◇商品前渡し!!!　日掛販賣
絕好のチャンス今すぐ御申込下さい。凡て買手の氣持になつて奉仕する高橋時計店

青葉にむせぶ行樂は……
絕對他に誇る幾多の經驗コース
定評ある旅行者の良きガイド!!
……先づプランを御相談致しませう……
東京鐵道局公認
不二タクシー
電話三一一番
（東北六縣走破。富士五湖箱根伊豆半島一周等は經驗コースとして獨り吾のみ保持するところ……。）

石炭　一〇〇%サーヴィス
時節柄ダンゼン値下げ!
一等塊　正味五十斤入一俵　金貳拾八錢
特塊　同　同　金參拾五錢
品質が優良　目方が正確　デナケレバ値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話三七番
石炭　コークス炭　豆炭
阿部石炭商店

磐城共濟病院（福島縣平町　電話六四一番）
內科・小兒科　院長　醫學博士　石山謙郎（電話六四一番）　部長　手醫學士　岩　佐藤尚輔
產婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科・耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏
皮膚泌尿器病科・花柳病科　部長　醫學士　前澤正（電話二七二番）
X線科・物療科　醫學博士　石山謙郎　技手　石山彪
藥局　藥局長　藥劑師　吉本孝平　事務長　鈴木寶雄
◎每日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎病室完備　入院隨意

中等學校國防服賣出
夏服新荷着……
洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）
藤田女學校前

「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）
齒科　口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
內郷村高坂　磐炭病院前
鈴木醫院

各方面の代表が一堂に會して 小名濱商港理想化談

堀切委員長安藝末永監事一行を迎へ 昨日盛況裡に終る

縣主催東北港灣(小名濱)振興調査座談會は委員會一行の築港實地調査後昨十四日午後三時より小名濱小學校講堂に於て開催したが出席者

東北港灣振興調査委員長港灣協會前常務理事貴族院議員堀切善次郎 委員同會監事工學博士安藝杏一 同大阪商船株式會社監査役末永一三 同幹事久保義雄 書記臼井克巳 同笹本義邦 縣經濟部長追靜吾 土木課長大石巖 木村技師 阿部、丹野兩主事 貴族院議員金成通 衆議院議員佐藤庄太郎 鈴木辰三郎 小名濱町長小野晉平 同助役高木保 縣水產試驗場長中山球三 小名濱港修築事務所長福來總十郎 平町長菅沼銘太郎 平商業學校長矢野泰次郎 小名濱青年學校長西山直三郎 回漕業者西丸猛 品川白煉瓦湯本工場長藤田茂 入山坑務所長吉田宗雄 古河鑛業所長下野十朗 磐炭鑛業所長菅原萬治郎 平製氷會社々長木村清治 同專務松本一郎 磐城セメント四倉工場長小室萬五郎 昭和人絹錦工場長吉田勇三 常磐炭田共同販賣所長清宮一郎 日本食糧工業小名濱出張所長原金藏 小名濱町會議員都市計畫委員小濱長太郎 同福尾伊太郎 町長鈴木榮 同郵便局長鈴木富太郎 同漁業組合長水野政次郎各氏等約四十名、座長追經濟部長の開辭堀切委員長の挨拶あつて別項の席談會に入り追座長の明快なる整理と小野町長の輕妙なる進行轉換に各自委曲を悉くして六時閉會、新米に於て町主催の歡迎晚餐會を開き、町長の挨拶に對し堀切委員長の謝辭あつて宴に入り盛會裡に七時散會した

双相兩郡港灣視察

東北港灣調査委員長堀切善次郎氏の一行は今十五日午前七時半頃自動車で四倉に向ひ約二十分間に亘り同漁港を視察の上久の濱、松川浦の兩港を視察後福島の同座談會に臨席のため出發した

亡友の慰靈に起つ 入山競技部選手

近く日立、古河と試合

不慮の災害に見舞はれた入山炭鑛の犧牲者中には同坑競技部の中堅選手として地方運動界に知られた四百、八百の中距離野木榮(三) 同二百、四百の伊川雪夫(三四)の兩君があり、伊川君の如きは八百リレーのメンバーで從來各方面の對抗競技に出場毎大量の得點を占めてゐた丈けに非常な損失とその死を惜しまれてゐるが、同競技部ではこれに屈せず災害後始末をつけ更新メンバーにより再び本格的練習に入るべく鬪志極めて盛んなるものあり磐炭との交戰を逸したので今度は前記二選手の『慰靈戰』として近く日立へ遠征、更に古河軍と一戰を交へるべく選手は何れも悲壯な決意のうちに目下おもむろに英氣を養つてゐると

小名濱灣頭を飾る 廣大な新埋立地

近く認可指令の內報

小名濱町では內務省築港事務所前海岸地約六千坪の埋立に關し過般仙台土木出張所を經て主務省へこれが認可申請の手續きを取つたが昨十四日近く指令ある旨の內報が入つた

町では正式指令を待ち愈々今月下旬から本格的埋立工事に着手するが該埋立地には町營魚市場の外鮮魚關係の大建築物が櫛比し殊に町營魚市場の如きは新埋立地利用により倍加され現在の水揚高年額百卅萬圓は一躍二百五、六十萬圓に及ぶので埋立着手を控へ全町には躍進の歡喜が横溢してゐる

豪放=優雅の墨痕に 腋下の清風を樂しむ

八月中旬平町で書道展

在平各書道會員及び同好者が大同團結して新に創立された平町聯合書道會では既報の如く創立最初の展覽會講習會を八月十七日より三日間第一校に開くが細規左の如く決定した

△全國書道展覽會

(種目)一般部—第一部(條幅、扁額)第二部(色紙短冊、扇面)第三部(半紙)少年部—(滿十五才迄)

(出品料)一般部一、二部は一點に付三十錢、同三部は十錢、色紙、短冊、扇面は三點まで一點とする、少年部は無料

(出品締切)八月五日迄平第二校內常陸鶴翠宛

(審査)松本芳翠、牛谷松湖兩先生

(賞品)特賞—知事賞一名會頭賞二名、天賞—各部一名、東部聯合書道會賞二名、地賞—各部二名、人賞—各部三名、褒狀若干名、成績發表は書道雜誌

△全國書道講習會

(時間)毎日午前八時より正午迄

(講師)松本芳翠先生

(講習要項)1書道研究法 2楷行草假 3その他

(會費)大人五十錢、小人二十錢

政府米購入

高久村で百十俵

高久村では鈴木代議士の斡旋により此程政府米百十俵の拂下げを受けたが合計金額千三十圓で俵當り九圓三十六錢である

◦◦◦◦他縣組頭團視察◦◦◦◦ 栃木縣足利警察署管內消防組頭二十名は明十六日來平、全國的表彰を受けた平消防組を視察する

小麥の脅威白澁病

天候不順から發生 平年作を危ぶまる

郡內の小麥作は平年作を豫想されてゐたが最近の不順天候に祟られ來月中下旬頃の收穫季を前にして脅威とされてゐる俗稱白澁病が發生、益々蔓延の兆あるので平年作を危ぶまれる處から目下關係筋でこれが撲滅に腐心してゐる、郡農會ではこれが豫防策として來る二十日迄郡內各農會と連絡ボリドール液等で極力防止する事になり昨十四日夫々通牒を發した

。。。。江名町軍樂演奏。 江名町では既報の如く今十五日午後二時から同町江樂館で軍艦那珂の軍樂隊を招き演奏大會を催した

縣教育總會 出席三千名

けふ第一日

既報—第五十一回縣教育會總集會は今十五日午後一時より磐中講堂で伊藤知事、諸橋學務部長、高井教育課長、佐藤社會教育主事その他臨席、會員約三千名參集開會の辭、國歌合唱、勅語奉讀、庶務會計報告、議事選擧、總理推戴の順序で進み協議題、建議題の議事に入つて午後四時散會した、尙ほ明十六日は午前十時から續行、會員演說あり終つて昨報の如く東京文理大學長森岡常藏氏の特別講演『我國民性の概觀』ある筈

各小學校長 鳥居公展墓

浪江町小學校の校長會終了と共に敎育會總集會に出席すべく來平した各校長連は開會前胡摩澤長源寺に近世平城の創建者鳥居公の墳塋を訪れ慰靈の禮を執つた

。。。。縣師範同窓會。。。。 今教育會總集會を機として會終了後午後四時より磐中に於て開催された

愈々けふ蓋あけ 繭都四倉賑ふ

御祝儀相場四圓見當

高値の呼聲に包まれながら四倉繭市場は愈々今十五日縣下のトップを切つて開場された、未だ出廻り季に入らないのと昨報の如き肚の探り合ひ等の關係で本格的氣分は乘らないが、それでも午前中早くも三口(約六十貫)が持ち込まれ、取引開始は午後二時頃で本稿には御祝儀相場も判明せぬが品質も相當良好なので四十圓からまりと觀られ出荷は約五百貫位であらうと云はれてゐる、各地からの買手も相當入り込み午前中丈けで米澤市佐藤組、山形市山口製糸、喜多方鈴木、小高町三澤組の外續々入り込んでゐる

六十名を收容して 九品寺托兒所開設

けふから向ふ二週間

平町九品寺の農繁托兒所は今十五日午前十時から關係者を招き開所式を擧行した四十名收容の見込みの處現在の申込みは六十餘名で田植最盛季に入れば百名近くになるであらうと觀られてゐる、尙同托兒所は向後二週間開設せるもので保姆には北白銀町菅野アイ氏並に八幡小路志田家政學院長に決定した

平窪村では三ケ所開設

平窪でも同村小學校、分敎場、上平窪寺院の三ケ所に來る十七日から開設、約二週間で毎日三ケ所計三百餘名收容の見込み

平は卅八圓

けふ初取引

平町南町木村支店でも今十五日午前取引開始、持込みは飯野村吉野谷馬目今朝吉氏の十貫目で御祝儀相場三十八圓、尙今日中には高久方面からも出荷あり四十圓台を突破するものと觀られてゐる

。。。。磐女籠球練習。。。。 磐女では今十五日東京高師体育部中

子籠球選手をコーチに招き猛練習を行つた

宿屋で卒倒

孤獨の老爺收容

湯本町傾城木賃宿小松屋に一昨十三日夜泊り込んだ自稱栃木縣宇都宮市大工町三茂呂安次郎(七〇)は同夜突然中風病で卒倒身寄りがないので一應町役場行路病舍に收容した

比佐六平氏 旅先で自殺

平町一丁目三四比佐六平(三三)は北海道網走郡網走町土木監督所にの勤務中去る十一日催眠藥を嚥下自殺を圖つたので直に同町南五條三丁目加瀨病院に收容手當てを加へたが遂に絕命した

小田、戸部氏等歸宅

不拘束訊問に附さる

石炭疑獄事件で大阪市北區刑務所に收容された好間村小田炭坑主小田吉治、磐崎村小野田戸部炭鑛主戸部光衛、磯原町山口儀一郎の三氏は不拘束のまゝ訊問に決し十四日夕刻出所を許され何れも歸宅した

皿泥棒に 盜みの數々

一昨年來荒し廻る

既報—去る十一日朝平町五丁目瀨戶物商入江幸雄方から瀨戶物皿約八十枚を竊取平署員に逮捕された信夫郡佐倉村生れ當時勿來町阿部力(三六)は取調の結果一昨年來次の如く平町內を荒し廻つた事が判明した

一昨年十二月二十五日平町白銀町川又吳服店から百十三圓分の反物、同月二十日平驛構內貨物倉庫より同町丸通運送店扱ひのナフトル地卅五圓分、昨年一月下旬湯本町箱崎吳服店からナフトル地九十反白圓分、同年四月平町渡邊吳服店軒先から拡包みの反物約卅圓、同年五月十八日白晝大膽にも平町大町吳服行商人山下宗一方軒下から自轉車に積まれた約四百餘圓の吳服類を自轉車ぐるみ竊取乘り逃げ車は鐵道官舍へ乘り棄つ

其の儘行方を晦ましたので當時平署では躍起となつて搜査中だつたものである

新ダニ發見か

また數名を召喚

平署では引續き舞ひ込む投書に躍起となつて搜査を進めてゐるが昨十四日夜平町三丁目五六ブローカー半谷祥重を引致渡部司法主任係り目下何事かに就き取調べを進め更に某炭礦方面からも數名を召喚取調べ中で愈々吞舟の魚を目指して活動を續けられてゐる事がうかゞはれて來た

勿來の內妻 斬り豫審へ

勿來町大字關田字松ケ澤居住茨城縣多賀郡鹽澤村野坂木挽職內貴事內喜久吉(五四)が內妻早坂ハルイ(三五)と家主の同字岡山今井乘吉(三二)と情交關係ありと邪推し八日午前九時頃乘吉方戶外でハルイの背後から斧で斬りつけ全治八週間を要する重傷を與へた事件は平檢事局白水檢事係りで取調べの上殺人未遂罪で起訴平支部の豫審に付された

馬目翁長逝

明後十七日葬送

平町五丁目吉田屋料理店馬目爲太郎翁(町議馬目武之助氏義父)は腦溢血で臥床中であつたが今十五日午前十時二十分遂に長逝した、葬儀は明後十七日午後三時自宅出棺菩提院に於て執行ふと

翁は慶應元年生(七十一才)前後四期に亘る町議の外消防組顧問、區長等に任じ同區靑年團の創建者で現在は市制施行調査委員會顧問を囑託され、その他公共に盡力すること多く逝去を惜まれてゐる

。。。。小名濱にスリ。。。。 昨十四日軍艦那珂の入港に雜沓中小名濱を徘徊する擧動不審の三十男を平署員が調べると右は北海道生れ和島佐市(三〇)で人出を覘ひ氏名不詳のものより現金二十圓入れ蟇口を掏り取つた外女物用財布數個を竊取した事判明した

。。。。理髮組合幹部出席。。。。 平署管內理髮業組合幹部左記七名は來月十二、三日中村相馬中學で開かれる縣聯合總會に出席、同十日委員會を開きこれが提案事項を協議する

(組合長)加藤宇之吉 (副組合長)野崎德太郎 (委員)菅野森光、三宮彌作、鈴木伊太郎、水野フユ、根本キン

小名濱商港振興座談會

各一代の經綸を吐露せる 發表意見要領(一)

追座長開辭。輝やかしい將來を有つ小名濱商港をして最も理想的效果的ならしむべく衆智を集めて今後に備へ度いと思ふ腹藏なく意見を發表して頂き度い

堀切委員長挨拶。我々委員の仕事は相當注目されてゐるので自分等の責任は重いと思つてゐる、東北地方の港灣の振興を期するには何うしてもその地方の人達の希望を承り、その實現に努める必要があるので各地で座談會を開くやうな次第である、どうぞ忌憚ない處を拜聽致し度い

小野町長。本日のお催しを衷心感謝する、當町は今後と雖も漁業を離れて立つて行けぬ町であるから此際單に商港としてのみで無く同時に漁港として利用厚生の途を增大出來る樣お話しを進めて頂き度い

木村前代議士。小名濱商港の眞の目的を達成するには先づ平小鐵道の完成によつて背面の交通關係を整備し、同時に水道、運河等の施設を要する、隨つて巨額の費用を要する爲當局はよく受益者の負擔を云爲するが地方の財政なるものは決して當局の見る樣に樂なものでは無いから此點を然るべく含んで貰ふ樣にせねばならぬ

小野町長。水道は鮫川江筋から仰ぐ事が出來る、江筋は既に第一期事業を了し近く着手する第二期工事は明十一年度に於て完成するから其後に於て江筋の最終點たる當町は四十個の分水を受くる筈で築港完成後に於ける上水道の點は懸念が無い事になつて居る

福尾町議。商港の將來の殷盛を招徠するには總ての企業利潤を大ならしめねばならぬ之の意味に於て諸工事勃興の前提をなす水道や物資の出入を簡便迅速ならしむる鐵道の敷設を急がねばならぬ

佐藤代議士。商港の將來は最大唯一の背面產出品たる石炭輸送と密接不離の關係に在るが各炭鑛では如何なる程度に船便を利用せらるか

清宮常磐炭田共同販賣所長。七十萬噸を出して欲しいと云ふ希望に對し四十七萬屯程度と云ふ約束で一昨八年赤木知事時代に十五萬圓を寄附したが常磐の出炭量は年額約二百五十萬噸で內鐵道納め六十萬噸、信州其他製糸業地行六十萬噸、東京附近卅萬噸は船便に關係無く、而も今後の豫想は九年度の出炭二百七十萬噸に對し今年度は二百四十萬噸と云ふ樣に減少の兆候を示してゐる有樣である(同氏談つゞく)

○——

謹告佐藤代議士送別會

代議士佐藤庄太郎君今般萬國議員會議列席の重大使命を帶び渡歐致す事に相成候へば些か其の行に祝意を表し左記の如く送別の宴を開催致すべく候間多數各位の御贊成を仰ぎ度く此段紙上を以て謹告仕候

期日 六月二十日午後一時開會

會場 平町住吉屋本店

會費 金一圓也

發起人 (順不同)

井上茂作、萩原義雄、小野晉平、金成通、田子健吉、野崎德藏、菅沼銘太郎、安島重三郎、木村清治、鈴木辰三郎、古川傳一

荊妻アサ儀永らく病氣の處養生不相叶昨十四日死去仕り候間此段御通知申上候
追而葬送の儀は明後十七日午後二時自宅出棺菩提院に於て佛式に依り相營み可申候
昭和十年六月十五日
福島縣平町三丁目
小野伊佐治
男 小野麟太郎
親戚一同

父爲太郎儀病氣中の處藥石効なく本日午前十時二十分死去致候間生前辱知各位に御通知申上候
追而葬送の儀は來る十七日午後三時自宅出棺菩提院に於て佛式に依り執行可致候
六月十五日
平町五丁目
馬目良之助
親戚代表 馬目武之助